

# 高速道にキッチントレーラー出動

高原町と奥霧島地域商社ツナガルたかはる、西日本高速道路九州支社は25日、高速道路のサービスエリア（SA）などへキッチントレーラーを出動させる新たな地域創生プロジェクト「動くたかはるSA」を始めた。初回は熊本県氷川町の宮原SAで26日まで、同町産の米粉を使った揚げ菓子「チュロス」を販売し町をPR。今後もSAやパーキングエリア（PA）、都市圏などへ出動させ、町の認知度向上を図る。

# 町产品販売で認知度向上



(上)「動くたかはるサービスエリア」の取り組みで、宮原サービスエリア内に設置されたキッチントレーラー。25日前、熊本県氷川町(下)高原町産の米粉を使って開発した「OK★チュロス」(いずれも奥霧島地域商社ツナガルたかはる提供)

# 「動くたかはるSA」始動

2022年に3者が結んだ連携協定に基づく取り組みの第1弾。

観光客らが地域の特産品や情報に触れられるSAやPAが同町にはないため、既存のSA

等に出向くことにした。

同支社によると、高速道路会

社と自治体等が連携して同様の取り組みを展開するのは全国初。同支社地域共創担当の濱野

昌志部長は「ただ移動販売をするのではなく、高原の魅力を多くの人に知つてもらい、実際に訪れてもらうきっかけにしていただきたい。その思いを『動くSA』というネーミングに込めた」と話す。

キッチントレーラーは、同地域商社がレンタルで導入。同支社の支援を受けながら、このために開発した「OK★チュロス」を販売する。内部には冷蔵庫や調理スペースがあり、来店者にできたてを提供できる。

同地域商社によると、25日は午前8時から営業を始め、従業員が「本日初稼働です」などと声かけしながら販売。家族連れや女性客に人気だったという。松木丈典ゼネラルマネージャー(41)は「初日から多くの方に買つていただき、『おいしい』と好評だったので良かった。町の販売を通して、高原に興味を持ち実際に来てもらおう流れを作つていきたい」と話していた。

★「フレミヤ」にも掲載 (成田和実)